

第39回 肝臓病を考える病診連携の会

視聴および単位取得手順

① 下記URLまたは登録用コードにアクセスし 事前参加登録を行って下さい

<https://kowa-web.com/s/PP933>



<登録用コード>

② 登録画面より必要事項を記入後 「登録」のクリックをお願い致します

名 太郎	姓 岡和
メールアドレス kowa-tarou@yahoo.co.jp	メールアドレスを再入力 kowa-tarou@yahoo.co.jp
氏名のフリガナをご記入下さい コウワ タロウ	所属の医療機関名をご記入下さい 興和診療所
日本医師会生涯教育講座 認定単位 (1.5単位) の要・否をご指示下さい <input type="checkbox"/> 要 (所属の医師会名をご記載下さい) <input type="checkbox"/> 不要	
医師会ご所属の場合は 医師会名 (市町村) をご記入ください <small>※単位申請時のみ</small> 平塚市	
登録時に提供する情報は、アカウントオーナーおよびホストと共有されます。アカウントオーナーとホストは、その情報を規約とプライバシーポリシーに従って使用・共有できます。	
登録	

単位登録の為 ご入力 is 正確にお願い致します

入力に間違いがあると 単位申請が出来ない場合がございます

登録情報と視聴履歴を確認し 単位認定を判断致します

③ 登録完了後に 当日視聴用リンクとパスコードを記載したメールが自動送信されます

太郎様

第39回 肝臓病を考える病診連携の会～肝がん撲滅を目指して～にご登録いただき、ありがとうございます

第39回 肝臓病を考える病診連携の会～肝がん撲滅を目指して～

日時 2022年11月9日 4:00 PM 大阪、札幌、東京

ウェビナー ID 846 0939 7174

パスコード 241109

質問は以下へ送信してください: reo-yamamoto@kowa.co.jp
 登録はいつでもキャンセルできます。

Zoomに参加する方法

1. PC、Mac、iPad、または Android から参加する

ウェビナーに参加

メールが送られてこない場合は 再登録をお願い致します (迷惑メールボックス等もご確認下さい)

④ 講演会当日 メール内の「ウェビナーに参加」を押して パスコードを入力して下さい
下記画面が表示されましたら視聴が可能です

ウェビナーは2024/11/09 にスケジュールされています

開始日時: 4:00 PM

第39回 肝臓病を考える病診連携の会

会当日は5分前に配信を開始いたします

配信開始までお待ちください

※一般参加者のカメラや音声はOFFになっています

お問い合わせ

ご不明な点等ございましたら 弊社担当者 または 下記連絡先までご連絡頂きます様 お願い申し上げます
 興和株式会社 横浜支店 平塚第一営業所
 山本玲央(やまもと れお) 携帯: 080-1388-8839 / E-mail: reo-yamamoto@kowa.co.jp

第39回 肝臓病を考える病診連携の会

～肝がん撲滅を目指して～

2024年 11月9日(土) 16:00～17:40 代表世話人 岡 正直 宮本 京

WEB開催 本会はZoomウェビナーでのオンライン開催となります
 視聴と単位取得の手順は最後の頁をご参照下さい

PROGRAM

16:00～16:10 製品紹介
 「高脂血症治療剤 パルモディア錠0.1mg」 興和株式会社

16:10～16:15 開会挨拶
 肝臓病を考える病診連携の会 代表世話人 岡 正直

16:15～16:55 一般講演
 座長: 神奈川県内科医学会 肝・消化器疾患対策委員
 坪井医院 院長 坪井秀夫

講演Ⅰ 「テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム投与中に肝硬変をきたした2例」
 藤沢湘南台病院 消化器内科 織茂 智也 先生

講演Ⅱ 「当院で経験した肝原発神経内分泌癌の1例」
 平塚市民病院 消化器内科 大西 勇輔 先生

16:55～17:35 特別講演
 座長: 肝臓病を考える病診連携の会 代表世話人 宮本 京

「脂肪性肝疾患における糖・脂質代謝マネジメントの重要性」
 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
 特任教授 高橋 宏和 先生

17:35～17:40 閉会挨拶
 肝臓病を考える病診連携の会 代表世話人 宮本 京

当講演会は日本医師会生涯教育講座認定単位 0.5単位の取得を予定しております
 (カリキュラムコード「75:脂質異常症」)

共催: 肝臓病を考える病診連携の会・神奈川県内科医学会 興和株式会社

抄録 第39回 肝臓病を考える病診連携の会

一般講演 I

「テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム投与中に 肝硬変をきたした2例」

藤沢湘南台病院 消化器内科 織茂 智也 先生

【症例1】81歳男性、X-2年3月に急性胆管炎で入院した際に下部胆管に狭窄を認め、胆汁細胞診で下部胆管がんと診断された。患者本人が手術を希望されずテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム治療を開始した。X年12月に肝機能悪化と両下肢の浮腫が出現。その1か月後から胸腹水と食道静脈瘤がみられ肝硬変と診断した(Child B9点)。それまでに肝疾患の指摘はなく、nonBnonCで飲酒歴は焼酎水割り1杯程度であった。テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムは21クールまで内服したが、本人との話し合いでX+1年2月で中止した。その後肝硬変に対する内服を継続し、症状の悪化なく経過している(Child B7点)。

【症例2】61歳男性。X-1年10月に前庭部胃がん、多発肝転移(cT3N1M1、cStageIV)で他院にてテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+オキサリプラチン(SOX)療法が開始された。9クール施行し原発、肝転移ともに縮小していたが、X年5月に見当識障害が出現し肝性脳症、肝硬変(Child B7点)と診断された。飲酒歴なしnonBnonCでこれまでに肝疾患の指摘はなかった。その後脳症の治療を続け、13クールまで施行したが、アンモニア数値が低下しなくなり化学療法を中止、BSCとなりX+1年2月に当院を紹介受診された。当院では高アンモニア血症の内服治療を続け、X+2年6月胃静脈瘤に対してバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)を施行した。X+7年の時点で肝硬変はChild A5点、胃がんおよび転移巣とも再発なく経過している。

【考察とまとめ】テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムは胃癌、大腸がん、肺がん、乳癌、膵癌、胆道癌の化学療法に使用されるフッ化ピリミジン系の抗悪性腫瘍剤である。骨髄抑制や嘔吐下痢などが主な副作用であるが、頻度不明で肝硬変の副作用が報告されている。今回我々はテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム使用後に肝硬変を発症した2例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

一般講演 II

「当院で経験した肝原発神経内分泌癌の1例」

平塚市民病院 消化器内科 大西 勇輔 先生

神経内分泌腫瘍(NEN)とは神経内分泌細胞に由来する腫瘍の総称であり、大きく高分化型のNeuroendocrine tumor(NET)と低分化型のNeuroendocrine carcinoma(NEC)に分けられる。多くは消化管・肺・膵に発生するが、まれに肝に発生することがあり、NEN全体の約0.3%と報告されている。本講演では、極めてまれな肝原発NECの1例を文献的考察も交えて紹介する。

症例は78歳男性。腹痛と食思不振を主訴に当科初診となった。血液検査で軽度肝機能障害、LDH高値を認め造影CTを施行。肝S7/8に127mm、肝S4/5に85mmのモザイクパターンを呈する低吸収域を指摘された。転移性肝腫瘍を疑い、上下部消化管内視鏡検査を施行したが原発巣となる病変は指摘できなかった。診断確定のため肝腫瘍生検を施行し、病理学的にはsynaptophysin、CD56が陽性であり、Ki-67 80%以上と高値であったためNECの診断となった。比較的肝表に近い病変であったため、腫瘍破裂予防を目的とした肝動脈塞栓術(TAE)を施行した。その後、全身化学療法を提案するも積極的な治療希望はなく、Best Supportive Care(BSC)の方針となり療養型病院へ転院となった。

特別講演

「脂肪性肝疾患における 糖・脂質代謝マネジメントの重要性」

佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター

特任教授 高橋 宏和 先生

肝疾患に対する連携は、これまで特にウイルス性肝疾患を対象として受診、受検、受療、フォローアップを基本に進められてきており、一定の成果が得られている。昨今の非ウイルス性肝疾患、特に代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)の増加に伴い、連携を最適化する必要がある。MASLDは肥満、糖尿病、脂質異常症の合併率が高く、それぞれの適切なマネジメントが肝がんや心血管疾患の発症予防に寄与すると考えられる。様々な検査によるハイリスクなMASLDの拾い上げと各科専門医との連携や、多職種での対応も重要である。本講演ではMASLDのアウトカムをより良いものとするための実践的な対応を考案していきたい。